

第5回ビジョン懇談会でいただいたご意見及び今後の対応方針

資料 1

No.	分類	発言者	提案意見 (項目)	発言内容	対応方針
1	ビジョン	杉本委員	表現の修正，統一	○ビジョンの45ページ，テーマとなる言葉が長い。読まないと分からない標題ではなく目に飛び込んでくるような表現がよい。 ○資料の間で文言，表現を統一した方がよい。	テーマとなる「圏域づくりの基本方針」の文言については，圏域の現状や特色，圏域がめざす将来像を踏まえ，連携事業案との関連性も鑑み，実態に則した表現に文言を修正しました。
2	ビジョン	原委員	県との役割分担 表現の修正	○ビジョンの46ページにある「防災・減災に対応するための体制を整える」という文言について，具体的なことが見えてこない。体制を整えるというのはかなり重い話なので，県がやることと，この構想でやることをさび分けしないとよくわからないことになる。連携事業は，当面は人材育成を加速化することにより県全体の防災力をボトムアップしようという発想だと思うので，この文章から見る「体制」というのとは違うと思うので，精査をお願いしたい。	文言について，「防災・減災に対応するための連携・協力体制を整える」と修正しました。体制整備に関する具体的な手法や役割分担は引き続き協議し，連携中枢都市圏のスキームで実施が可能なものは，連携事業での実施を検討してまいります。
3	ビジョン	原委員	効果・メリット 表現の修正	○連携事業No. 57-1防災リーダー育成事業で期待される効果として「被害軽減が期待される」とあるが，「早期復興をめざす」という文言を入れていただきたい。 ○高知市のメリットの欄で，単に人材育成だけではなくて，高知市が市町村と連携することによって，被害軽減につながるというのは本質的に何が大事なのかということを，当面は人材育成でいくにしても5年間で一つ一つ洗い出していきたい。	ご指摘のとおり，事業効果に「早期復興」の文言を追加しました（ビジョン原案70ページ）。また，今後も様々な観点から防災力の向上や被害軽減，早期復興に向けた取組を検討してまいります。
4	連携事業	小田切委員	成年後見制度	○受任者の問題もあり簡単にはいかないが，成年後見制度の仕組みが各市町村で利用できる状況にない。高知市は試行的にやっているが，それを全市町村でやっていかなければいけないという議論がある。特に中山間地域では身寄りのない方が増えている。	成年後見制度及び発達障害への支援については，現時点で事業化に向けた協議ができておりませんが，いずれも重要な課題であると認識しております。引き続き，市町村のニーズを踏まえながら課題解決の方法を検討してまいります。
5	連携事業	小田切委員	発達障害への支援	○発達障害への支援というのも大きな課題である。県が療育福祉センターで一元的に一部支援をしている。	
6	連携事業	亀井委員	物流	○産地と消費地を結ぶ，市町村同士の連携という観点でいくと，流通，物流というのは非常に大きな課題である。連携事業全般に関わる問題として，流通のあり方，物流も意識しながら取り組んでいただきたい。	流通・物流は単独としてはもちろん，連携事業をスムーズに展開していくうえでも大きな課題であると認識しております。課題の解決にむけ，高知県や民間団体の協力を得ながら，中長期的な課題として検討してまいります。
7	連携事業	原委員	新しい仕掛け	○連携事業No. 57-1について，単にサテライトだけでは先細りになる。もう一步踏み込んで，受講された方のフォローアップを考えていただきたい。また，若年層が防災教育に関わる仕組みづくりなど，教育委員会での議論も必要になると思うが，新しい仕掛けをすることによって，広く県民の防災力が上がる取組を考えていただきたい。	受講された方へのフォローは，振り返りによる学習効果の定着が期待されますので，今後検討してまいります。また，若年層に対する防災教育についても県民の防災力を向上させる有効な手段であり，クイズ大会等の手法を活用した事業など，若年層が参画しやすい方法を検討し，県民の防災力向上を図ってまいります。
8	連携事業	藤崎氏（内川委員代理）	KPI	○連携事業No. 12広域観光推進事業に関して，KPIが年間観光入込客数と県外観光客消費額となっているが，宿泊者数を入れてはどうか。（宿泊施設は高知市に多いので，物部川地域では高知市との連携を意識した施策を考えていく必要があると考えている。）	K P I の設定については，圏域の範囲が高知県と同じになることを踏まえて，高知県産業振興計画との整合性を重視することとしており，観光分野においては「県外観光客入込数」と「観光総消費額」を設定することとしております。

No.	分類	発言者	提案意見 (項目)	発言内容	対応方針
9	連携事業	受田座長	民泊	○宿泊については劇的に変わっていくので、Airbnb（民泊のマッチングサイト）などを使っていくのか、そうではなくエリア内で新しい民泊のシステムであるとか、それをリアルタイムで情報として共有できる仕組みにし得るのかなど、アイデアはここからである。今のような広域観光での、特に高知市の宿泊施設を活用し、他のエリアとの連携によって新しい観光のデザインができればこれまでの既存の枠組みに囚われない、あるいは既存のものに利益を吸収されないような域内での経済の活性化に資するような方向もあると思う。協議を進めていただきたい。	観光における宿泊のシステムについては、既存のものや新たなシステム等を利用した様々な仕組みが今後も生じてくるものと考えております。関係機関の皆様と幅広い観点から協議を進め、新たな仕組みを効果的に取り入れつつ、高知市の宿泊施設と他市町村の観光資源による相乗効果が発揮できるよう、検討してまいります。
10	連携事業	片岡氏（竹村委員代理）	医療におけるソフト面の支援	○連携事業No. 18新高知赤十字病院への支援はハード面での支援だと思うが、ソフト面をもう少し具体的に、「連携方法の検討」ではなく、もう少し突っ込んだ検討をして記載いただきたい。 ○高次あるいは災害時の医療は、高知医療センターの存在抜きには考えられない。高知医療センターは日赤と違って高知県と高知市で管理運営しているので「私たちがこうしていきます」という表現ができるのではないかと。県と高知市が当事者でもあるので、新高知赤十字病院との間でこのビジョンを通して新たなソフト事業を具体的に提案していただければと思う。	ご指摘のとおり、連携事業No. 18新高知赤十字病院への支援はハード面での支援ですが、施設の完成後には、医薬品等の備蓄や周辺医療機関への供給など、ソフト面での連携事業の実施が不可欠であると考えております。今後、市町村のニーズを踏まえつつ、赤十字病院、高知県、市町村と協議を行い、検討してまいります。 また、高知医療センターも圏域の医療を支える大きな役割を果たすべき医療機関ですので、その特性を利用した連携事業の展開を検討してまいります。
11	連携事業	受田座長	広域的交通網	○広域的交通網に関してはユーザーを細分化する必要がある。ビジョンを実施する5年間で色々なものが変わっていく時代に差し掛かっているので、公共交通機関のあり方や移動という意味での色々な先進技術がどのように変わっていき、それをどのように先取りしていくのかについて、連携して協議をしていくことで非常に大きな価値を生み出す可能性がある。広域的交通網に関しては、現状の整理と共に、さらに将来の広域での人の移動、物流の話、モノ・ヒト、もしかすると情報も含めてこの連携中枢都市圏内にどんな動きがあってどうなればいいのかまで、先進技術を先取りしながら考えていく地盤が醸成できると違ってくる。現状を踏まえすぎると議論が難しくなることもあるかと思うが、早急な整備・議論の展開を期待したい。	ご指摘のとおり、交通・物流・情報といった分野については技術の進歩がめざましく、ビジョンの計画期間である5年のうちに様々な新しい技術や視点が生じてくるものと考えております。これらの情報等については常に情報収集を行い、ビジョン懇談会等のご意見を踏まえながら、圏域の課題を解決する手法として検討してまいります。
12	連携事業	黒笹委員 受田座長	二段階移住	○お試し移住と二段階移住の関係を整理していただきたい。例えば、私（黒笹委員）は二段階移住も視野に入れて高知市に住んでいるが、お試し移住をしているわけではない。例えば、1～2年お試し移住をして周辺市町村に出て行こうとする二段階移住の方と、高知県に興味があるがそこまで具体的には考えていない状況でとりあえず高知の住み心地を体験してみたいというお試し移住というものもあると思う。現在、県が取り組んでいるのは後者のような印象。（黒笹委員） ○移住者をお招きする立場で考えるのと、移住者の立場がそもそも違ってくるので、年代別や目的別などセグメンテーションしないと話が混乱してくるのではないかと。例えば50代以上のアクティブシニアであれば「生涯活躍のまち」の一環として位置づけることができる。少しターゲットを切り分けたほうがいい。（受田座長） ○「お試し移住」と「お試し滞在」が混在している。お試し滞在は、1週間とか1か月とか一定期間ホテル暮らしなどをするイメージを持っている。お試し移住は、私のように高知市にマンションを買って住んでいるのも二段階移住のお試し移住に含まれる。移住者目線では分かりづらいので整理してほしい。（黒笹委員）	「二段階移住」は、高知県の特性を活かした、他圏域には例のない取組になり得ると考えておりますが、ご指摘のとおり「お試し移住」や「お試し滞在」の概念や定義など、今後整理が必要なものも多い状況です。移住を希望する方にとって分かりやすく、また、有用なものとなるよう、ターゲットの観点も含めて、引き続き関係機関との協議を進めてまいります。
13	連携事業	黒笹委員 受田座長	インバウンド観光	○インバウンドについて、クルーズ船で来高する日帰り客の対策に追われていると思うが、長期的な視野で言う個人外国人旅行客に対して高知らしいおもてなしをするというのが一つの流れになると思う。これについては、高知市が抱える課題の一つでもあると思うが、連携中枢という枠組みを活用して解決していくチャンスだと思う。外国人観光客が喜ぶコンテンツは何かを外国人観光客から学ぶ視点も必要ではないか。例えば、私たちが思いもよらない場所に外国人観光客が滞在しているとすれば、求めるコンテンツがそこにあるということであり、私たちが持っていながら気づいていない資源である。それは、国内の観光客向けにも開発できる可能性がある。インバウンド観光を学びの機会と捉えることも必要ではないか。（黒笹委員） ○一般ユーザーとリピーター、ロイヤルユーザーをセグメンテーションする必要がある。（受田座長）	インバウンド観光の事業効果を高めるためには、外国人観光客が望んでいるコンテンツを的確に提供し、満足度を高めていただくことが必要です。外国人観光客のニーズと高知県の資源を結びつけ、有効な施策とできるよう、様々な関係者の皆様から情報をいただき、学びながら今後の事業展開を検討してまいります。